



「思いやり予算」で優遇、軍事訓練はやりほうだい 米軍にとって居心地がいい日本

いつも住宅地上空で飛行訓練を行っている米軍機C-130(ハーキュリーズ=ヘラクレス)

沖縄普天間基地の移設問題で、鳩山首相は昨年「国外、最低でも県外」といつたのに、「辺野古への移転」と自民公明政権とほとんど同じ方針に。

迷走、無責任に沖縄県民だけでなく、国民の批判が高まっています。

日本では軍事訓練やりほうだいの米軍

羽村市の上空でも夜10時近くまで、横田基地の米軍機の爆音で、テレビの音が聞こえなかったり、家族の対話がとぎれたりすることがたびたびです。

沖縄では米軍機の爆音に加え、一般道路での装甲車の訓練、住宅地でのヘリコプターからの降下訓練、相次ぐ米兵の犯罪等、県民が「米軍基地をなくせ!」と立ち上がるのは当然です。

アメリカでは住宅地での訓練はありえない

アメリカでは飛行訓練にさいしては、人間はもとより、「動植物に影響を与えてはならない」ということになっています。ですから、飛行訓練などは広大な砂漠で行われています。日本の国民は“アメリカの動植物以下の扱い”となっているのです。

思いやり予算でいたれりつくせり

在日米軍に対して、日本政府は「思いやり予算」と称して、高層マンションなどの住宅、娯楽施設、基地内の日本人従業員の給料などを日本国民の税金で支出し優遇、これも世界に例をみないものとなっています。



日本国民の税金で建設された高層住宅

横田基地への攻撃を想定した訓練が日常的に

5月23～27日、運用即応演習(ORE:Operational Readiness Exercise)が行われたようです。英和辞典で直訳すれば「軍事行動、敏速、訓練」です。

防衛省北関東防衛局横田防衛事務所からの情報提供によれば、「仮想戦闘環境における基地の機能テストを行なう。具体的には、テロ攻撃や航空機又は地上戦闘力等による基地への攻撃を想定し、実践的な即応体制をとることを目的とした演習。」とのこと。

この種の訓練は通報があったものだけでもこの1年で7回ほど行われており、米軍基地が日本を守る「抑止力」どころか、相手国やテロリストの攻撃の標的にされてしまう心配があることが、米軍の訓練の実態からもわかります。

米軍基地撤去の運動をひろげよう

アメリカは「地元で歓迎されないところへは行かない」ともいっているようです。政府が「思いやり予算」など米軍優遇をやめ、基地撤去運動を広げ、「居心地」を悪くすることが、基地をなくし平和な日本をつくるカギではないでしょうか。

日本共産党市議団の一般質問予定

鈴木 たくや 議員 6月2日午前10時

中原まさゆき 議員 6月2日午後1時頃

市川 えい子 議員 6月2日午後3時半頃



6月定例議会日程

- 6月1日(火) 本会議 一般質問
 - 2日(水) 本会議 一般質問
 - 3日(木) 本会議 一般質問
 - 4日(金) 本会議 議案審議他
 - 10日(木) 議会運営委員会
(陳情の審査)
 - 18日(金) 本会議
- 開会はいずれも午前10時です。

記事の訂正

羽村民報 5月2日付 976の記事で「肺炎球菌ワクチンへの公費助成制度の実施を」の中で「瑞穂町も実施が決まっています。」としましたが、瑞穂町は「ヒブワクチンの公費助成のみ実施予定」で肺炎球菌ワクチンへの助成は予定していません。お詫びして訂正します。